

平成22年度第1回鹿児島市行政改革推進委員会 会議概要

日 時：平成22年5月11日(火) 15:00～17:00

場 所：本館2階特別会議室

1 開 会

2 協 議

【委員会での主な意見等】

- パブリックコメント手続の結果について、重要な案件であるにもかかわらず、市民の意見が少ない。また、大綱の市民への説明については、市民のひろば4月号では3分の1ページ程度である。行政側の説明があまりに簡素すぎるのではないか。
- 実施計画で数値目標が掲げられているが、達成するための具体策が示されていない。目標としての数値が出たことは第一歩であるが、どのように進めていくのか具体策が示されれば、もっと分かりやすかったのではないか。
- 市民との協働と言うのであれば、行政側の声というものを、市民側ももっと理解すべきなのではと思う。
- 新規の政策を実施するにあたって、コストパフォーマンスの検討や、市の持っている経営資源について、その事業を選択・集中した明確な理由が必要である。
- 計画を策定する人と実施する人は違う場合が多い。特に「市民に優しい質の高い行政サービスの提供」の推進にあたっては、窓口で日々対応している職員など、全職員の行政改革に対する意識を高めることができるかが重要である。
- 職員の対応なども10年前と比べると改善されているが、今が良ければ次を求めるのがユーザーの心情である。実施計画にあるように、職員の意識改革には努力してほしい。
- 実施計画では、今後、実施していくプロセスが見えてこない。22年度から実施していく中で、111項目が現在どのような状況にあって、どのような進捗状況なのかを知る機会をつくってほしい。
- 実施計画の「スピード感を持った効果的な行財政運営の推進」にある電子カルテシステムの導入については、利用者にとって煩雑なシステムとならないよう、十分注意しながら進めてほしい。
- 人というものは興味関心のある情報しか取ろうとしない。市民にとって重要なのは利害関係のある個別具体的な施策になってくる。しかし一方で、後で知らなかったということも結構あるので、欲しい情報はいつでも提供できる体制を整えることは大切である。また、広報の方法についても、自前の媒体だけで広報するには限界がある。世の中には、有料無料を含め、様々な媒体が存在しており、有効に活用していくことが必要である。

3 閉 会